

新任教員研修における学習教育ワークショップの取り組み

大学教育開発研究センター 加藤かおり

1. 学習教育ワークショップの目的と目標

学習教育ワークショップは、新任の教員を対象に、学士課程教育としての教授学習のあり方および役割、目標達成型学習のための教育計画についての理解を深め、基本的な実践力の向上を図ることを目的として実施された。メインファシリテーターを加藤が、ファシリテーショングラフィック等を濱口センター長、津田教授が担当した。

2. ワークショップの到達目標

このプログラムの修了者には、以下の能力および態度を身につけていることが望まれる。

第1日目

(知識)

- ① 従来の教授中心の教育と、知識基盤社会に対応した学習中心の教育との違い、および後者の今日的意義について説明する。
- ② 目標達成型学習について、その意味を説明できるとともに、新潟大学の教育体制との関連性を明らかにする。

(スキル)

- ③ 目標達成型学習のための教育計画を設計する。具体的にシラバスの作成（ねらい・到達目標の設定、成績評価方法および基準の設定）など。
- ④ 目標達成型学習のための授業計画を設計し実行する。

(態度・価値観)

- ⑤ 学習者としての学生を尊重し、共に学びあう環境づくりを目指す。
- ⑥ 教授学習についての自分自身の目標を明らかにし、その達成を目指す。

第2日目：12月20日

(知識)

- ① 授業観察の観点
- ② 学習サイクル理論に基づく授業計画の枠組み
- ③ 適切なコミュニケーションの理論

(スキル)

- ④ 授業観察およびピアレビュー方法
- ⑤ 「学生の学習を深める」授業プラン

(価値、態度)

- ⑥ ピアレビューによる授業改善の意義

⑦ 学生の理解を深める授業づくりの意義

3. ワークショップの日程

第1日目：9月27日（場所：国際センター）

- 10：00 開会・あいさつ
- 10：05 今日のプログラムの目標確認
「何を教えるか」から、「いかに学びを深めるか」へ知識基盤社会を背景とした学習理論、学習観の変遷、目標達成型学習の意味、本学の教育理念・教育体制とのつながりと、国内外の動向における位置づけ、学習中心の教育における教員の役割、課題などについてのディスカッション
- 12：10 昼食・休憩
- 13：00 目標達成型学習のための教育計画シラバスとは何かについての概念形成、教育計画の実習など
- 14：35 休憩
- 14：50 教育計画について全体討議
全体ふりかえり（最初に期待したことは達成されたか。）
- 17：00 次回12月の案内と課題（終了）

第2日目：12月20日

（午前：国際センター、午後：大教センター）

- 10：00 あいさつ
- 10：10 今日の目標およびスケジュールの説明
ミニ授業ビデオ撮り、および授業観察の意義と手順の説明。
- 10：20 ミニ授業&授業観察・ピアレビューの実施
- 12：20 昼食+場所の移動（大教センターへ）
- 13：10 「学生の理解を深める」、「学生に考えさせる」授業プランづくり
日常の授業実践のふりかえり、学習のサイクルに基づく授業プランの情報、ミニ授業を変えてみる（レッスンプランの再構成）など
- 14：30 各自プランづくり
- 14：45 休憩
- 15：00 新プランの発表
- 16：30 ふりかえり
- 17：00 終了

4. 「学習目標達成型学習はベストな選択か」に関する参加者の意見

第1日目のワークショップにおいて検討した「学習目標達成型」の学習についての意見として、つぎのような意見があげられた。概ね、学習目標達成型について前向きな意見が多いものの、実際にどのようにして教育を実践したらよいかについての疑問も多かった。第2日目のワークショップでは、90分の授業をどのように構成することができるのか具体的に習得するプログラムを用意しており、こうした疑問の解消を目指す内容となっている。

また、このような教育のあり方について、参加者のほとんどがこれまでに議論した経験がないにもかかわらず、中には本質にせまる意見もあり、各々の専門分野を超えて話し合い、考察を深めることのできるテーマであると感じた。

(各参加者の意見)

- ・目標達成型学習はベターな方法だと思う。「目標」のあり方、持ち方のほうが大切だと思う。卒業とか試験とかではなく、こういう先生になりたいとか、こういう仕事人になりたいとか、大きな目標の中での小目標を持っていれば、生涯学習にもつながるし、大目標を持ってもらえるような授業をする努力を教育側もするほうがよいと思う。教員側も大目標を持って取り組む。目標そのものをあまり持たない学生にはどうしたらいいのか？大目標を持ってもらうにはどうしたらいいのか？
- ・目標達成型学習を本気で実行しようとするのであれば、学生の目標を教員が予め認知しておく必要があるのではないか。学生自身が、大学とは自分が主体的に目標を設定し実現する場所だということを理解しているのか？そのことを周知するオリエンテーションが必要ではないか。アクティブ・ラーニングは大人数講義において実現可能なのか。
- ・「目標達成型学習」は理想であると思うが、学部、学科等のアドミッション・ポリシーに照らし合わせ、学生に対して求める最低限の知識やスキル等の水準をどのように担保するのか、疑問である。
- ・目標達成型学習は、良い方法とは思いますが、分野によっては時間、場所、予算の裏付けがなくては難しいと思う。学んだ知識を使ってみる場として現在、歯学部で実施している実習はある程度有効と思う。
- ・学生に目標を自分で設定するような意欲、興味を引き出すのが難しい。卒業後も問題を自分で解決できる力を身につける手助けとして、過程の講義が役立つのなら良い。
- ・具体的にどう進めるのかイメージがわからない人数による違いは？内容が少なくなならない？学生にあらかじめ高い能力が求められるのでは？
- ・従来の講義でやってきた？学んで欲しいことを試験で実施してきた→ベストの選択をしてきた。そのこ

とを予め生徒に分かるように（「目標」として掲げ）伝えることと理解してきた。今までの教育の実態とどう違うか、今ひとつピンとこない。

- ・「目標」の質・高さという部分を設定するのは教員なのか（最終的には学生であるべき？）大学での学習に目的、目標を持たない学生（一回生など）に、目標を持たせることが必要なのでは？ガイドとしての目標達成型学習（資格試験等）は有効だと思います。
- ・目標のない学習とは存在するのか。教員の作成したシラバスなどの「学習目標」に対し、達成度は誰が評価し、またその「学習目標」に応じた授業か否かをどのように評価するか。
- ・学習目標と、講義のタイトルとの違いは？ベストかどうか、今は分からないけれども、最も理想的であると思う。
- ・大学が高等教育を行う場所と考え、更に国際基準にのっとるというのであれば、達成すべき目標は大学（つまり先生）が与えるべきである。学生はその目標を達成すべく学習するほうが分かりやすい。更に、知識は蓄積しない限り使えないと思うので、まずは学生は知識を集めることに集中すべきでは？
- ・理想ではあるがベストとはいえないこともある。
- ・生徒のレベルや意識には差があって、授業で目標と言っても、シラバスに書かれた目標達成が難しい人もいるだろうと思う。意識を高めるという意味では、目標を決めることはよいと思うが、授業を受けている人の多くは単位をとることを目標としていると思う。どれだけ興味をもってもらえるかが大事なのかなと思った。
- ・目標達成型学習がベストな選択かどうかはわからない。学生の目標以外の学習は、どう扱ったらいいのか。学生の、目標以外での気づきなどの方が、大きな発見であったりする場合がある。考えれば考えるほど分からなくなる。看護師国家試験合格することが最低ラインなのか最高ラインなのかも疑問である。
- ・自主性を尊重するのはいい。まだ知識のない学生に具体的に目標を持たせるのは無理。ある程度は、指導者が目指すものを示すことも必要。
- ・現在の私の知識ではベストなことなのかどうかはわかりません。学習にはプロセスがあり、そのプロセスを理解する上で支援する必要がある。専門の知識を得る時に、不十分な知識量をどう支援し、十分な量に導くのか。
- ・目標を与え、材料を与え、学習を促す。果たしてうまくいくのか。
- ・目標達成型学習には、発展性がないのでは。
- ・学習レベルの設定なしに提案されている学習選択はできない。学生のレベルの確認が必要。
- ・目標達成型学習は教員側（評価する側）には都合がいい。これだけは知っていて欲しいという線引きができるので。でも、知りたいと思うことに共通の目

標があるとは思わない。これは理想的な話ですが、私は放牧的な教育が理想です。大学生が学びたいことを自由に選べればよいと思う。つまり目標=知って満足することを各自で理解し、共通にすべき。

- ・教員と学生、双方にとって都合のいい学習法。ベストではないと思うが、一対多で行う場合、合理的。ベストでないのは、教員のレベルに合わせることになる点。
- ・自分が関係する学科においてはベストだと思います。国家試験という目標があるために、minimum requirementsを設定して、学生に理解させないといけない点です。ただ、学科用の試験パス、将来の国家試験パスを目標にすると、各自の一時的な目標が達成されてしまうと、その後の高まりが期待できない。各論的には、試験的にパスするという一次の目標が必要だが、もう一つの高次の目標を持たせた講義にしたい。それが何かは、結論が出せていませんが、教師の教育力が要求される部分だと思います。
- ・教室の中でコミュニケーションをとりながら、学習の機会を喚起することはよいことだと思うが、一人で長時間、長期間に渡って机に向かわない限り、身につかないものもあると考える。
- ・目標を学習者で設定できるのがBestでは？教える側が目標をカッチリ設定してしまうと、枠におさまってしまう？

5. 参加者の振り返りと今後の課題

参加者に、ワークショップに参加しての振り返りを、第1日目、第2日目ごとに記述してもらった。記述内容は、(1)最初に期待したことの達成度、(2)他に気づいたこと、理解したこと、(3)このプログラムの改善への提案、(4)最後に一言の4つの項目についてである。

達成度については、概ね達成されたとする参加者が多い。その一方で、参加への期待や目標が曖昧な参加者もいる。全体として、「参加型でよく理解できる」、「こころ良い」、「新任教員の大きな助けです」、「相談できる、導いてくれる組織とシステムが学内にあって、経験できた事が大変うれしい」など、好意的な意見を得ることができた。

また、「システムとしては、非常に優れていると思う。このワークショップ経験者のみで構成される大学になった時改革は達成される」のではないか、という意見のほか、「新任ではなく、教授陣に受けさせるべき」、「参加者が多くなればいいのになあと、思いました。大学として、新任研修をどう考えているのか疑問」というような、研修のあり方に対する意見も見られた。

今後は、以下に記載した参加者からのプログラム改善の提案や様々な意見を参考にさせていただきながら、

さらに内容を充実させていくとともに、この研修の大学における位置づけに関する再検討の必要性についての働きかけも同時に行っていきたい。

第1日目

(1) 最初に期待したことの達成度

- 質問時間がとても役に立ちました。理
- 当初考えていた教育のイメージと、ワークショップでの話とは違っており、また、教員に求められる目標なども知ることが出来、目標以上の成果が得られた。医歯学系
- ほぼ達成された。歯
- 「大学教育の在り方」「シラバスとは何か」という基本的な目標でしたが、いろいろな先生方の話を聞いて、良かったです。目標は概ね達成できたと思っています。自然科学研究科
- 「学生のやる気をどう引き出すか」という事で何か参考になる事があればと思って来たが、結局は自分の分野を誠実に教える事が良いのだなと思った。自然科学研究科
- シラバスの作成方法等、概ね達成することができた。教
- 魅力ある講義とはどんなものか、正しい評価の方法について学びたいと考えていたが、これらの点は12月に実習を通した訓練があるとのことなので次回に期待しています。今まで高等教育に関して漠然としていたところが整理された点で非常に良かったと思います。農
- 目標の設定が低かったためか、十分達成できました。すみません。歯
- 具体的な内容に関する期待が大きかった為、漠然と大まかに達成できた感がある。教
- 教育する側の視点でいろいろなことを考えることができた。まだ自分自身学習の途中で、できることは小さいと思うが、すこしでも学生が興味をもって自分から学んでいきたいと思うような場を提供できればなあ、と思いました。医
- 当初の目標が「学生、専門外の方にも分かってもらえる、興味をもってもらえる」講義を行う、ということでしたが、実際はそんなに簡単なものではありませんでした。ただし、「何をポイントにするべきか」をレクチャーしてもらえたことで、自分に何が足りず、何を目指すべきかが具体的に意識できるようになったという点では進歩したと思います。脳研
- 目標設定が低かったので概要はつかめました。(学士課程の教育について) 歯
- 分かったと思える授業でなくてもよいのですね。学習することのhelpになれば。歯
- 「学生が興味を持ち、かつ飽きさせない授業計画を設計できるようにしたい」という当初の目標は、おおむね達成できたように思う。理

- 40%です。授業計画（シラバス）の作成方法の基本要件を具体的に知りたかった。けれども、具体的な実行法は解りませんでした。後者は次のプログラムですね。歯
- 80%。保
- 50%。理
- 目標があいまいだったため、達成率不明。しかし、今回のWSでたくさんの知らないことがあり、興味をもつようになりました。学習意欲がわきました。医歯学
- 他の教員の方との講義方法がよくわかり（特に他分野の）、十分に目標は達成できました。医
- 今後教育に関して学習するよい機会になった。現在本学歯学部で行っている教育方法の良さを再認識できた。ほぼ満足しています。歯
- 半分位の理解度。医
- `吸収できることを学んで帰りたい、という目標でした。目標達成です。医
- 今回の範囲外だったようなので、今後考えたいと思います。人

(2) 他に気づいたこと、理解したこと

- 大変こち良いワークショップでした。理
- 学生に学習してもらうために教師の側が気を付けること、わかりやすい到達目標の提示方法とその必要性などがわかったように思います。歯
- シラバス作成時に使用する用語の重要性。教
- このワークショップ自体が目標達成型の授業だったのですね。参考になりました。医歯学研
- 参加型でよく理解できるが、ある程度の時間が必要だと思う。これを1コマの授業に活かすのは結構むずかしそう。人
- 大学教員は大変である。大学教員支援を行って欲しい。理
- 授業の組み立てを考えるにあたっての、示唆に富んだ事柄が多かった。歯
- いろいろな先生方がいるので、まとまりきらない場合もあるようです。／少し作業が短い気がします。自分の（学科の）講義シラバス用意させたのに、“全学科”対象はないのではと思いました。あまりもってくる意味がなかったかもしれません。／学生に熱く語れるようにがんばろうと思います。自然研
- シラバスの練習で使っている言葉が良いと言われた。自然研
- 目標達成型の学習の評価方法は、授業の内容によって大きく異なる。したがって今後の課題としたい。教
- 「シラバスは契約である」という文言は非常に分かりやすく、理解の一助になりました。企業における人事評価システムに似ていますね。農
- どれだけ教育者が苦勞しているのか（もしくはな

ければいけないのか)に気付いた。一方で過保護だなあとも思った。与えるものが多すぎていたれりつくせりでますます学生達が受動的になるんじゃないかという不安もあります。(私自身もそういう学生でした…。) 医

- やはり研究第一の職場ですので、「教育」に対する意識・動機づけができるように、という所から入ることになります。／ここでは、ある程度大人数の授業を想定されていたと思いますが、日々指導する学生への、1対1での対処法についてもあてはまることだと分かり、早速実践していければと思います。脳研
- 歯科衛生士教育が、3年制へ移行し、本学では4年制の中で福祉課程もある為、その中で、歯科衛生士の教育を充実させていく為、教員が努力する必要があると思いました。歯
- 一年生向けの授業については、今回の方法を用いるイメージが持ちやすいが、自然科向けの授業には、そのまま用いることができないように思う。数学を学ぶ上では忍耐力が一番大事であると思う。理
- もう少し、具体例が欲しかった。分野外の授業例でもかまいません。歯
- シラバスの意味、必要性、書き方。→何か必要か？否か。医歯学系
- 担当者のそのときどきのコメントの重要性。保
- 午後は集中力が少し失われたので、もう少し日程を分ける、休み時間をとるなどしてほしかった。医歯学
- 自分の考えを明確な文章にして他人に理解していただくことの重要性がわかりました。医
- 現在の学生の意識、レベルが思ったよりも低いことがわかった。歯
- 学生のレベル分け（ランクづけ）をしてから、学生自身にランクを知らせ、レベル別に講義の選択へ。医

(3) このプログラムの改善への提案

- システムとしては、非常に優れていると思う。このワークショップ経験者のみで構成される大学になった時改革は達成される(?)と思う。医歯学系
- もう一度、シラバスを書き直してみます。医歯研
- 対象（新任教員）の経験によってプログラムをアレンジすればより良くなるのではないのでしょうか？（教授と助教では経験が違うので）教
- できれば、分野別（あるいは文系・理系）ごとの指導についてもこういうプログラムを組んでいただけるといいと思います。脳研
- ずっと加藤先生だけが話されているので、大変そうだと思います。／シラバスについてなど、着任時に作成についての冊子などがいただけるといいかなと思いました。／プログラムの計画をした用紙もみ

なさん分ちあつたほうが良かったと思います。自然研

- 討論できて良かったです。自然研
- 学生に目標設定をさせて、教員はそれをサポートするという理論は理解できました。学生の側にこの点をどの様に伝えているのか、理解されているのか？という点を教えて戴けるとありがたいと感じました。農
- 目標達成型学習についてこちらが提示（記入）した疑問に答えて頂けると有難かった。教
- 第2回までの期間が空きすぎているように思う。理
- このプログラムの成果・結果がどのように評価、公開されていくのか、示して頂くと幸いです。歯
- キャリアなどに合わせて、さらに焦点をしばった企画というのもよろしいのではないかと感じました。保
- 2に書きましたが、午後は集中力が少し失われたので、もう少し日程を分ける、休み時間をとるなどしてほしかった。医歯学
- 特にないですが、教育学のエッセンスを紹介したHPを公開していただければこちらも継続的に勉強ができて有り難いです。医
- 双方向（学生と教員）の情報交換があれば良い！？ 医
- 丸半日位でコンパクトにできないか。医
- ボールペンの方が書きやすかったかも（笑）人
- 一回の時間を短くし、回数を増やして、多くの教育法を教えていただきたい。理

（4）最後に一言！

- おもしろかったです。これまでWSを受けていない同僚にもこのWSをすすめてみます。医歯学
- 2日間、思った以上に勉強になりました。12月の方もよろしくお願い致します。脳研
- 相談できる、導いてくれる組織とシステムが学内にあって、経験できた事が大変うれし。歯
- 教育に携わった経験がない為、不安もありますし、学士課程の教育を担うことができるか…自分の課題が大きすぎると実感しました。歯
- 加藤先生ありがとうございます。
- 学生が新大でよかったと思われる一助となれるようがんばろうと思います。自然研
- ありがとうございました。自然研
- 先生方、お忙しいところご丁寧なご指導ありがとうございました。教
- シラバス作成法は大変参考になりました。出来れば採用直後（あるいはシラバス作成前）に資料だけでも配布いただけるとありがたかったかな？と感じています。農
- 学生さんに、シラバスを読んでいただきたい。歯
- 授業評価や成果を教員の給与等に関連づける事には

慎重であって頂きたい。教

- スタッフの方おつかれさまでした。医
- 参考になりました。ありがとうございます。医歯研
- どうも、ありがとうございます。理
- 今の学生は、昔はって意味ない議論と過去の美化と思う。医歯学系
- とても充実した時間を持てましたので感謝します。医
- 勉強になりました。ありがとうございます。人
- つかれました。おつかれさま。理
- 大変勉強になりました。ありがとうございました。歯

第2日目

（1）期待したことの達成度

- 今までの講義において、自分自身でフィードバックし改善してきた事項を、他人またはセンターの方から評価され、モチベーションが得られた。
- 200%位。忘れかけていた前回の内容も再確認するだけでなく、理解が深まった。
- 自分の授業する姿をビデオで見て、また、客観的な意見を頂き反省することができた。客観的に意見を言ってもらえることには価値がある。
- 授業へのモチベーションが低かったが、結構、授業は難しいことが分かった。自分なりに方向性が見えてきた。
- 急いで作ってきたスライドでしたが、作る過程でいろいろ考えさせられることもあり、今日の皆さんのプレゼンをみて、自分の改善点が明らかになってよかった。
- 他の先生がどのような授業をしているのか知りたかったので、達成できた。ビデオが良かった。実践的な授業テクニックを知りたかったことについて、コミュニケーションの具体例、バスグループの話（生徒が少し騒がしくなっても良いこと）を知ることができてよかった。また、授業に対する自信をつけたかったことについて、少しついた。

（2）他に気づいたこと

- コミュニケーションの重要性。1コマの講義の時間配分を作ることの意味ならびに必要性。シラバス作成の段階から、講義のプランニングも考えておく必要があること。
- 自分のプレゼンのビデオを見て、言葉のつもりが多く、パワーポイントを見たままで、少し余裕がなかった。
- コミュニケーションを授業の雰囲気を作るためのツールとして使うことに気づくことができた。コミュニケーションは、場づくり。
- プレゼン、授業をわかりやすく行うことはとても大事だと思う。午後の授業の組み立てで、途中でボイ

ントの確認を入れたり、学生に与えすぎる方向に
いってしまい、だんだんと自分でものを考えなくな
る学生がふえてくるのではないかという危惧があり
ます。

(3) このプログラムの改善への提案

- 参加者が多くなればいいのになあと、思いました。
大学として、新任研修をどう考えているのか疑問。
- 視覚素材の使い方（プレゼンテーションのデザイン
など）、バズグループの実践についてさらに話し合
う、コミュニケーション方法の実践など、さらに行
う。
- プログラムの中で、上級者のビデオも見るなどして、
どこがうまいのか確認できたら、内容の理解も深ま
ると思う。模擬プランを作成してみて、実感として
分かった。たまたま教科書を持っていたので作りや
すかったので、参加者は持参するべきだと思う。
- 無関心な学生への対応、実践テクニックが知りたい。
学生の学ぶ目的をどうやって明確にするか。もう少

し、時間に余裕がある時に開催してほしい。

- 参加するまでのモチベーションを向上させる工夫を
して欲しい。参加することの具体的なメリットを予
め知ることができるようにして欲しい。学生を巻き
込む方法が分かるなど、案内状に盛りこんでは？
もっと知らせてよいと思う。

(4) 最後に一言

- 新任ではなく、教授陣に受けさせるべき。新任は、
教育の重要性を理解している。
- 先生方も準備が大変でしょうが、ぜひこのワーク
ショップを積極的に継続させて欲しい。新任教員の
大きな助けです。(なかなか参加する時間がありま
せんが)
- 2日間ありがとうございました。
- お疲れさまでした。加藤先生のハキハキとしたき
れのよいやわらかいしゃべりは、すてきですね。
- どうもありがとうございました。